

斑点米カメムシ情報第1号

平成26年7月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

1 発生状況

6月下旬の巡回調査（県内96ほ場）の結果、水田畦畔における捕虫網20回振りによる斑点米カメムシ類の捕獲頭数は、畦畔雑草で12.4頭（平年6.8頭）で、過去10年と比較して2番目に多い捕獲頭数でした。

予察灯における斑点米カメムシ類の誘殺数は、豊川市で5月下旬から、長久手市で6月上旬から増加し、平年並からやや多く（図）、大口町、弥富市、西尾市では平年並で推移しています。

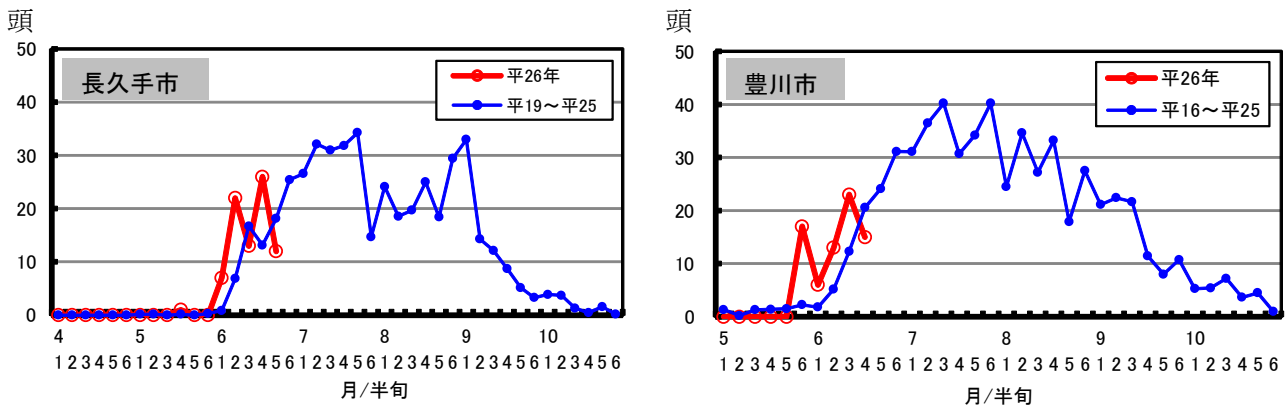


図 予察灯における斑点米カメムシ類の誘殺数

2 防除対策

斑点米カメムシ類は、主に水田畦畔などのイネ科雑草の子実を餌に増殖するので、除草を徹底しましょう。また、水田内で穂をつけたヒエ類なども斑点米カメムシ類の発生を助長するので、除去しましょう。

畦畔や水田内をよく観察し、カメムシ類を確認したら、表を参考に穂揃期に薬剤防除を実施し、その後も発生が多い場合は7日から10日後に再度防除しましょう。

表 斑点米カメムシ類に対する主な防除薬剤

薬剤名
トレボン乳剤
スミチオン乳剤
キラップフロアブル
キラップ粒剤
スタークル／アルバリン顆粒水溶剤
スタークル液剤10
スタークル／アルバリン粒剤
スタークル豆つぶ

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。